

## こどもの風邪と 全身麻酔について

「うちの子、風邪をひいているのですが、今度の手術は大丈夫でしょうか？」

春めいてきたとは言え、このような質問がまだまだ多く聞かれる風邪の季節は続いています。軽い風邪だから、短時間の手術だから、問題ないだろうと思われるかもしれませんが。

**が、残念ながら「大丈夫ですよ」、とは全員にはお答えできません。**

風邪をひいていると分泌物が増えてのどを刺激し、麻酔中に喉頭けいれんや気管支けいれんを引き起こしたり、低酸素血症（肺の酸素の取り込みが悪くなる状態）に陥りやすくなります。重篤化すれば肺炎や髄膜炎などの合併症を起こすこともあります。風邪を引いている場合、基本的には、体調が十分に回復するまで全身麻酔を避けた方が安全です。

当院の予定手術は体表等の小手術が多いので、

麻酔科の術前診察や麻酔の説明は通常、手術前日に行います。診察時に血中酸素飽和度（血液中の酸素の取り込み具合をパルスオキシメーターという器械で測



パルスオキシメーター 痛くないよ

定します。痛くありません）が低かったり、聴診で呼吸音の異常や、胸のレントゲン写真で異常所見があれば手術を延期することがあります。



また、入院時や手術前日の診察で手術可能と判断しても、手術当日熱が出たり、咳や痰がひどく出たり、明らかに体調が悪化しているようであれば、当日であっても手術を中止する場合があります。

全てはお子さんご本人のためです。親御さんはお仕事や家の都合もあり大変だと思いますが、どうかご理解ください。

中止のことばかり書きましたが、風邪といっても重症度は様々なので、鼻水のみで元気があれば、一年齢にもよりますが、予定通り手術を行うことのほうが多いのです。

尚、風邪で手術を延期した場合は、風邪が治った後も気道の過敏性は数週間続くので、少なくとも2週間は空けるほうが望ましいでしょう。

風邪気味で心配な方、麻酔に関して質問のある方はどうぞ気軽にご連絡ください。

（麻酔科 尾本 朋美）

### 医療福祉相談室 たより

## 計画相談支援・障害児相談支援

H27年4月から、障害者福祉サービス・障害児通所支援を利用されているすべてのかたは「サービス等利用計画(または障害児支援利用計画)」に基づいて支給決定を受けることとなります。ひとりひとりに相談支援専門員がつき、生活を彩るお手伝いをしてくれます。もちろん自分でプランを立てることも可能です。

各市町で準備が進められてきています。

詳細は、お住まいの市町・障害福祉担当窓口にお問い合わせください。

（ソーシャルワーカー  
高村 純子）

